

第3回 奈良県道路斜面防災点検検討委員会

議事概要

1. 日時：令和7年2月20日 10:00～11:30
2. 場所：奈良県庁 災害対策本部室（オンライン併用）
3. 出席者：

委員長	京都大学 名誉教授	大西 有三
委員	京都大学 工学研究科 都市社会工学専攻 教授	岸田 潔
委員	関西大学 社会安全学部 教授	小山 倫史
委員	京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 准教授	橋本 涼太
委員	国立研究開発法人 土木研究所 地質・地盤研究グループ 上席研究員	浅井 健一
委員	奈良県県土マネジメント部次長（土木・政策統括担当）	篠田 隆三

4. 議事

- (1) 資料説明
- (2) 質疑・意見交換

主な議事概要

○斜面災害に関係しているかどうかの判断の参考ポイントについて

- ・資料P11、吹付に植生が繁茂している場合、背面が空洞化している可能性があるとして記載あるが、空洞化していなくても地山が劣化していることもある点を追記すべき

○災害種別毎の調査対応方法について

- ・崩壊がおこった後すぐに踏査するのは危険な場合もあるため、ドローンによる調査も追記すべき

○概要版の作成について

- ・職員がすぐに理解しやすい用、概要版などでポイントを示すとよいだろう。

○スクリーニング調査手法と災害種別の適用範囲について

- ・資料P14について、△とすると使いにくいと感じてしまうため、◎○△の表現を工夫すべき。
- ・地すべりや深層崩壊では、ゆっくりと動くことで道路に変状がでることもあることを記載すべき。

- ・奈良県が現状どこまでできているのか示すべき。
- ・日常点検とあわせたときにどう対応するのか分かるようにすべき。

○パトロールの目的について

- ・変状が出た後に調査をすることは重要だが、何も無いことを日常的に確認していくことも重要であることを明確にすべき。

○範囲の絞り込みについて

- ・変状が出そうなところに限定して重点的にLP図を高頻度で取得することも今後検証していくべき。

○災害種別毎のスクリーニング頻度について

- ・災害種別ごとに変状が現れてから発災までの時間スケールが異なるため、統一したスクリーニングの流れで対応できるかについて試行しつつ検討するべき。

結果

手引きの修正を行い、後日委員に意見照会する。

以上